

問② 瓜田 新一議員

受けた苦情や要望、働き方改革による時間短縮も含めて、人員は十分なのかを検証する必要があると思いますが、その点について伺います。

答② 久保 弘志町長

現在の体制で住民生活に影響が出ている部分があるのなら、建設課と調整し、できる限り改善を図り、住民生活に影響がないよう進めていきたいと考えます。

安全な住環境の保全と住宅ストックの循環利用について

問① 森 浩議員

町に人を呼び込むには、依然として残っている危険な空き家の整理や、空き店舗の活用など、街中の整備が必要になると思いますが、所見を伺います。

答① 久保 弘志町長

空き店舗については商業起業化支援・活性化事業の活用により、支援を行っています。空き店舗の多くは住宅と併用しているため利活用が困難であり、加えて改修等に多額のお金がかかる場合もあると伺っています。空き家については平成30年度に策定した空家等対策計画に基づき対応しており、空家バンク等の登録住宅は令和元年度から7件、解体についても24件の実績があることから、一定程度知られ、成果はあると判断しております。しかしながら、いずれの対策も個人所有の財産なので町が対策を講じられる施策は限られており、今後引き続き補助事業等を広く周知しながら管理不全の空き家を減らしていくことに努めます。

問② 森 浩議員

ロードヒーティングの故障により除排雪に苦勞した実態が見受けられましたが、修理と併せた街並みの整備といった考えについてお聞きします。

答② 久保 弘志町長

ロードヒーティングの改修や無電柱化などの実施年度については明確に定まっていますが、令和5年5月に複合庁舎が完成し、外から人を呼び込み、賑わいが生まれることも見据えながら、空き店舗を含めた街並み整備についても町民のみならずと議論しながら取り組みたいと考えます。

地域コミュニティの活性化について

問① 高橋 隆文議員

コロナ禍で地域の住民活動が制限されたり、地域コミュニティへの関心が薄くなってきてい

る中で、どのような取り組みによって地域の絆を再生するのか、お聞きします。

答① 久保 弘志町長

少子高齢化、過疎化の中では地域コミュニティが重要であると考えており、自治会の協力を得て8割の地域で自主防災組織に取り組んでいただいております。コロナ禍で活動ができない状況ではありますが、自治会長と意見交換を行いながら、コロナ終息後には活動ができるよう、町としても取り組んでいく考えです。

問② 高橋 隆文議員

全国的にみて、本町の自主防災組織の結成率は高いですが、実際に活動をしていない自治会や、活動内容が浸透していない自治会が多いように感じます。町としての指導体制などをお聞きします。

答② 久保 弘志町長
コロナウイルスとは長く付き合っていかなければならない中でも上手く活動ができるよう町としても指導体制を整えながら取り組みたいと考えます。

鳥獣被害防止対策について

問① 高橋 隆文議員

今年度は新たに、有害鳥獣被害に対する業務委託や各種補助など3つの事業が予算化されていますが、その運用方法や事業の考え方を伺います。

答① 久保 弘志町長

まず1点目として、エゾシカ捕獲業務委託料は、町営牧場の中で囲いむなによる捕獲を知床財団に業務委託するもので、事業の実績をみながら助言をいただき、今後の展開について進めていく考えです。

2点目は、JAこしみずと2分の1ずつ負担して行う、エゾシカ被害の自衛に向けた資材購入などの補助

事業を3年間行うものです。

3点目は、近年被害が増加しているヒグマとキツネの捕獲用むなに対する購入費用で、管理は猟友会で担ってもらうものです。

今年度についてはこの新たな3事業を行うため、大きな予算となりますが、広域的な取り組みが必要となるものですから、近隣市町と常に情報共有を図り、国・道にも要請活動を行いながら町は町として今できることに取り組み考えです。

問② 高橋 隆文議員

平成31年度に作成された小清水町鳥獣被害防止計画では、3年間で被害額等を10%削減することを目標としています。令和3年度の被害額は計画作成時より約2.6倍になっています。今後どの程度を目標値としているのでしょうか。

答② 久保 弘志町長

昨年度から被害額の把握を徹

観光振興について

問① 工藤 孝一議員

道の駅はなやか周辺のグランドデザインプランについて所見を伺います。

答① 久保 弘志町長

当面の予定としては、まずは道の駅はなやか小清水の農畜産物加工施設をアグリハートセンターへ移設するので、フードコートへの拡張など道の駅改修を行い、交流人口を増やしていきたいと考えています。今後の整備予定や課題としては、老朽化しているフレイト展望台の取り扱いを検討することと、前浜キャンプ場のテントサ

イトの充実として、道の駅北側の民有地の購入を行い、テントサイト整備を進める考えです。加えて、本町は野鳥の町というところで、野鳥観察小屋を含めた瀟湖周辺エリアの利活用対策をプランニングしていく考えです。

問② 工藤 孝一議員

秋鮭シーズンの釣り人のマナーの悪さに、浜小清水駅の北側に住む住人から苦情が出ていると聞いています。道の駅周辺の開発などを進める前に、限られた時期や地域での禁漁を含めた対策を検討する必要があると思いますが、考えをお聞きします。

答② 久保 弘志町長

釣り人のマナーについては、町ができる範囲で努力していますが、町の権限では限界がありますが、取り締まれない部分もあるのが現状です。止別地域の方からも同じようなお話は出ており、禁